

「話し合う」情報モラルの授業

The study of the information morality in the lesson which took in talking activities

岡本 弘之*、浅井 和行**

Hiroyuki OKAMOTO*、Kazuyuki ASAI**

聖母被昇天学院中学校高等学校*、京都教育大学**

Assumption High-School*、Kyoto University of Education**

要約：中高生を取り巻く環境はSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）・スマートフォンの普及など急激に変化しつつあり、これらを含めた情報モラル教育の必要性は高まっている。本実践では高校の情報科において、生徒同士の経験交流や話し合いによる学びを重視し、注意事項を知るだけでなく活用まで話し合わせる情報モラルの授業を企画・実施した。この話し合う情報モラルの授業について振り返り、その効果について明らかにしたい。

キーワード： 情報科、授業実践、高等学校、情報モラル

1. はじめに

本実践では、SNS も含めた「情報発信」の際の注意点・活用を学ぶことを授業の目標に置いた。その際、次の3点も意識して授業を企画した。

- ①経験交流や話し合いによる学び
- ②話し合いを活性化するため、KJ法やブレインストーミングの手法も取り入れる
- ③影の部分だけでなく活用まで考えさせる

①については、生徒への挙手による調査で、ブログ・SNSによる情報発信をしている生徒とそうでない生徒の割合は半々であった。このことから話し合いにより、活用している生徒からそうでない生徒への経験交流を期待した。

②については、より多くの意見を出させるため、これら社会でもよく使われる手法を使うこととした。

③については、情報モラル教育の目標である、注意すべき点を知るだけでなく、もう一段階上の「賢く使う」方法についても考えさせることとした。

2. 授業の実践

高校2年生の情報Cの1学期の授業で、3時間を使って実施した。

2.1 授業のねらい

生徒がWeb・ブログ・SNSで情報発信する際に注意すべき点を知り、活用するための力をつける。

2.2 授業の展開

2.2.1 知識の整理をする（1時間）

インターネット上で個人が情報発信に用いるWeb・ブログ・SNSそれぞれの特徴について、更新

の容易さ・双方向性・公開範囲といった視点で整理する講義を行い、生徒はその話をワークシートの表にまとめた。SNSについては知らない生徒も半数あったので、主なSNSの画面構成・参加人数・特徴を筆者の実際のページを見せながら説明をした。

説明後、アクセス数の多い人気ブログをいくつか紹介し、誰をターゲットにどんな情報が発信されているかについて各自で分析させた。

2.2.2 利点と注意点をKJ法で整理する（1時間）

自分の経験や聞いた話から、ブログ・SNSなど個人が情報発信する際の注意する点、便利な点をワークシート・付箋にそれぞれ書かせた。その上で同様の内容をWebでも調べさせ、同様にワークシート・付箋に記入させた。この準備のあと、座席で指定した4人ずつのグループで、注意する点・便利な点ごとに、画用紙に付箋を貼りつけ、似た内容をグルーピングするKJ法の手法で項目を整理させた。

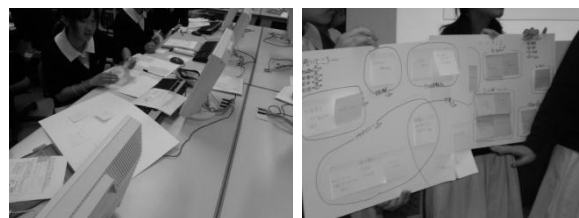


図1-2 生徒がKJ法で作成した用紙・風景

この整理した画用紙をもとに各グループ1分程度で全員の前で発表させ、自分のグループ以外の発表について、ワークシートにメモさせるようにした。すべての発表終了後、生徒があげた項目のスライドを用い、授業者が解説・補足説明を行った。

2.2.3 活用を考える (1時間)

情報発信する際の注意点・便利な点を整理した上で、活用について考えさせた。

「学校が公式ブログ・SNS ページを作った場合、どのような情報を発信すればいいか」というテーマで、情報を発信するターゲット・それに合わせた情報の内容について4人グループで話し合わせた。

ここでは活用のアイデアを出すことが目的なので、ブレインストーミングの手法で、意見を否定せず多くの意見を列挙させることとした。アイデアが列挙しやすいようここでも付箋を用い、その付箋をもとにKJ法で最後は整理させた。この意見も各グループ1分程度で発表させ、全員で共有した。

3. 結果

3.1 生徒があげたブログ・SNSの利点・注意点

前半の話し合い「ブログ・SNS など情報発信することの便利な点・注意すべき点」で生徒が発表した項目をまとめると、以下のようになる。

いいところ・長所	注意するところ・課題
<ul style="list-style-type: none"> ・個人が情報発信しやすい ・コミュニケーションが豊かになる(交流) ・情報の収集がしやすい ・同じ趣味を持った人とつながりやすい ・情報交換が楽しめる(双方向性) ・いつでもどこでも発信できる ・連絡が取りやすい ・交流が楽しい ・とまどちが増える ・簡単に更新・書き込みができる ・自分が思ったことをすぐ書き込める 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒らす人の被害にあうかも ・個人情報知られやすい ・ワンの情報も多い ・誰に見られているか分からない ・人間関係が悪くなることもある ・写真付きだと居場所が特定される ・犯罪に巻き込まれる ・登録するときの手間 ・参加する人が限られている ・危ない人からの連絡の可能性も ・依存・疲労の危険性 ・なりすましの問題 ・他人を傷つけてしまうかもしれない

図3 生徒の発表のまとめスライド (A組)

3.2 学校のブログ・SNS 活用のアイデア

後半の話し合い「学校がブログ・SNS を使ってどのような情報を発信すればいいか」でも発表させた。以下はあるグループの発表の原稿である。

手順 ③グループの用紙を、下の表に自分なりにまとめてください。	
ターゲット	情報の内容
・中学生	生徒にアンケートをとって事をおこす
・生徒、親	クラブについての書
・生徒	今日の授業のニュースをおこす
・卒業生	学校の活動をおこす
・在校生	行事の写真をおこす (7/11にみかおこす)

図4 活用のアイデア (生徒ワークシート)

4. 考察

今回の話し合う情報モラルの授業の効果について、授業観察、生徒の制作物・感想から考察し、次の5点に整理した。

①具体的な注意事項が学べた

生徒の発表からは、スマートフォンで撮影した写

真に位置情報が残ること、SNSのプライバシー設定の方法など、具体的で新しい注意事項・利用方法が出た。この発表に授業者が解説を加えることで、従来講義形式で実施した時より、多くのことを学べた。

②注意事項の調べ方が学べた

話し合う前にインターネットで注意事項について調べさせたことで、利用している生徒も新しい発見があった。インターネット上のコミュニケーションは次々と新しものが現れる。知識を教えるだけでなく、調べ方を教えておくことは、将来新しいツールが現れても対応できる生徒を育てることにつながる。

③マイナス面・プラス面のバランスが良かった

活用している生徒からプラス面について多くの意見が出され、マイナス面に偏らないバランスの良い授業となった。生徒の感想にも「使い方を間違えなければいいものになる」、「守らなければいけないマナーもあるが、コミュニケーションが広がる」といったバランスのよい感想が多くみられた。

④受け身ではなく主体的に授業に取り組めた

生徒たちは積極的に、意見を出したり、調べたり、話し合っていた。生徒の感想にも「友達の意見が参考になった」、「KJ法は楽しかった」、「たくさんアイデアが出てくるのが面白い」といったものが多くみられた。

5. まとめ

従来から生徒が興味を持つ情報モラルの授業をめざして工夫してきた。今回実践したKJ法・ブレインストーミングの手法を使った話し合い中心の授業は、予想以上に活発な意見交換が行われ、生徒が主体的に取り組むことができた。そのことが感想にも表れていた。今後も教え方の工夫を行い、より効果的な情報モラルの授業を開発していきたい。

参考文献

- (1) 文部科学省(2010)「教育の情報化に関する手引き」(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm) 2012.7.25 確認
- (2) 文部科学省(2010)「高等学校学習指導要領解説情報編」開隆堂
- (3) 岡本弘之、浅井和行「高校生が中学生に情報モラルを教える授業の実践」日本教育メディア学会「教育メディア研究」第17巻第1号、pp.27-36
- (4) リクルート進学総研「高校生のWEB利用実態」(<http://souken.shingakunet.com/>)2012.7.3 確認